

Ⅱ 調査結果の概要

注) 文中において、今期、前期、来期については、特に説明がない限り、以下の時期である。

- 前期 平成26年 4月～平成26年 9月期
- 今期 平成26年 10月～平成27年 3月期
- 来期 平成27年 4月～平成27年 9月期

1. 調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」について、平成26年10～12月期は前期（同7～9月期）から同水準で推移したが、続く平成27年1～3月期は悪化した。先行きについてみると、同4～6月期は回復に転じる見通しで、同7～9月期についても引き続き改善する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」、「受注」、「出荷」は同水準で推移した。「在庫水準」は製・商品、原材料とも過剰超となった。「仕入価格」、「販売価格」はともに低下した。「資金繰り」は悪化した。

経営上の問題については、「人材不足」が最も多く、以下「仕入価格の上昇」、「生産・受注・売上げ不振」と続いている。

業界の動向については、幅広い業種で人材不足、為替動向（円安）に伴う仕入価格の上昇といった声などがあつた。消費増税の影響については、反動による売上の低迷を見込む声がある一方、徐々に回復してきているといった声などがあつた。

2. 新潟市景況調査結果（BSI）の総括表

1. 業況 P. 12～	<ul style="list-style-type: none"> 26年10～12月期の業況感を示した業況BSI（「良い」－「悪い」）は▲24.6と、同7～9月期の▲25.5から同水準で推移したが、続く27年1～3月期は▲31.4と悪化した。先行きについてみると、同4～6月期は▲25.3と、6.1ポイント改善し回復に転じる見通しで、同7～9月期は▲23.3と、改善が続く見通しとなっている。
2. 生産・売上 P. 20～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の生産・売上BSI（「増加」－「減少」）は▲20.1と、前期（▲20.0）から同水準で推移した。来期も▲21.0と、同水準で推移する見通しとなっている。
3. 受注 (製造業・建設業のみ) P. 25～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の受注BSI（「増加」－「減少」）は▲21.7と、前期（▲22.1）から同水準で推移した。来期は▲27.9と、低下する見通しとなっている。
4. 出荷 (製造業のみ) P. 28～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の出荷量BSI（「増加」－「減少」）は▲17.0と、前期（▲17.4）から同水準で推移した。来期は▲26.1と、低下する見通しとなっている。 今期の出荷額BSI（「増加」－「減少」）は、▲21.8と前期（▲20.1）から1.7ポイント低下した。来期は▲26.6と、さらに低下する見通しとなっている。
5. 在庫水準 (原材料在庫は製造業のみ) P. 33～	<ul style="list-style-type: none"> 製・商品在庫BSI（「過剰」－「不足」）は1.9と、前期(1.2)から0.7ポイント上昇した。来期については、1.4となっている。 今期の原材料在庫BSI（「過剰」－「不足」）は2.9と、前期(2.7)から同水準で推移した。来期は2.8と、同水準で推移する見通しとなっている。
6. 価格 P. 41～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の仕入価格BSI（「上昇」－「低下」）は、31.4と前期(40.3)から8.9ポイント低下した。来期については30.1と、引き続き低下する見通しとなっている。 今期の販売価格BSI（「上昇」－「低下」）は▲1.2と、前期(5.4)から6.6ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。来期は0.3と、再びプラスに転じる見通しとなっている。
7. 資金繰り P. 51～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の資金繰りBSI（「好転」－「悪化」）は▲16.3と、前期（▲11.6）から4.7ポイント低下した。来期は▲15.1と、上昇する見通しとなっている。

<p>8. 雇用 P. 56～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 26年度の雇用BSI(正社員の数) (「増加」－「減少」)は2.7と、25年度(▲2.4)から5.1ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。27年度は▲1.6と低下し、プラスからマイナスに転じる見通しとなっている。 26年度の臨時・パート社員等の雇用BSI(増加－減少)は0.5と、25年度(▲0.6)から1.1ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。27年度は▲2.2と低下し、プラスからマイナスに転じる見通しとなっている。 今期の所定外労働時間BSI(「増加」－「減少」)は▲2.6と、前期(▲0.3)から2.3ポイント低下した。来期は▲6.0と、引き続き低下する見通しとなっている。 今期の一人当たり人件費BSI(「増加」－「減少」)は21.1と、前期(21.8)から0.7ポイント低下し、8期ぶりの低下となった。来期は18.0と、引き続き低下する見通しとなっている。
<p>9. 設備投資動向 P. 76～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の生産設備BSI(「過剰」－「不足」)は▲7.6と、前期(▲10.0)から2.4ポイント低下し、「不足」超幅が縮小した。来期は▲6.2と、「不足」超幅がさらに縮小する見通しとなっている。 今期の営業用設備BSI(「過剰」－「不足」)は▲3.9と、「不足」超幅が縮小した。来期は▲4.0と、今期とほぼ同水準で推移する見通しとなっている。 26年度における設備投資の実施事業所割合(実績見込み)は24.7%と、前年度(21.7%)より3.0ポイント上昇した。来年度は18.3%と、低下する見通しとなっている。 26年度の設備投資目的としては、「既存機械・設備の入れ替え」が最も多くなっている。
<p>10. 経営上の問題 P. 85～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営上の問題について、各項目の該当事業所割合は「人材不足」(41.0%)が最も多く、以下「仕入価格の上昇」(40.0%)、「生産・受注・売上げ不振」(34.6%)と続いている。

<p>3. 業種別 新潟市景況調査結果 (BSI) の総括表</p>	
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 26年10～12月期の業況判断BSIは▲30.3と、前期(▲31.5)から1.2ポイント上昇したが、続く27年1～3月期は▲32.7と低下に転じた。先行きについてみると、同4～6月期は▲32.2、同7～9月期は▲31.3と、ほぼ同水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲18.5と、前期(▲23.8)から5.3ポイント上昇した。来期は▲26.5と、低下に転じる見通しとなっている。 今期の受注BSIは▲19.0と、前期(▲23.3)から4.3ポイント上昇した。来期は▲26.5と、低下に転じる見通しとなっている。 今期の製・商品在庫BSIは4.8と、前期(1.8)から3.0ポイント上昇し、「過剰」超幅が拡大した。来期は5.3と、ほぼ同水準で推移する見通しとなっている。 今期の仕入価格BSIは37.9と、前期(47.1)から9.2ポイント低下した。今期の販売価格BSIは▲5.2と、前期(▲1.8)から3.4ポイント低下した。 今期の資金繰りBSIは▲20.4と、前期(▲16.4)から4.0ポイント低下した。来期は▲22.8と、さらに低下する見通しとなっている。 26年度における設備投資の実施事業所割合(実績見込み)は28.9%と、前年度実績(25.0%)から増加した。 経営上の問題は「仕入価格の上昇」(50.7%)が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」(45.0%)、「人材不足」(32.2%)と続いている。

<p>非製造業 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> 26年10～12月期の業況判断BSIは▲23.1と、前期（▲23.8）とほぼ同水準で推移したが、続く27年1～3月期は▲31.1と低下した。先行きについてみると、同4～6月期は▲23.5と上昇に転じ、同7～9月期は▲21.1と、さらに上昇する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲20.5と、前期（▲18.9）から1.6ポイント低下した。来期は▲19.5と、上昇する見通しとなっている。 今期の仕入価格BSIは29.7と、前期（38.5）から8.8ポイント低下した。今期の販売価格BSIは▲0.1と、前期（7.4）から7.5ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。 今期の資金繰りBSIは▲15.2と、前期（▲10.3）から4.9ポイント低下した。来期は▲13.1と、上昇に転じる見通しとなっている。 26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は23.5%と、前年度実績（20.8%）から増加した。 経営上の問題は「人材不足」（43.3%）が最も多く、以下「仕入価格の上昇」（37.2%）、「生産・受注・売上げ不振」（31.8%）と続いている。
<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 26年10～12月期の業況判断BSIは▲7.9と、前期（▲15.0）から7.1ポイント上昇したが、27年1～3月期は▲26.4と低下した。先行きについてみると、同4～6月期は▲23.0と上昇に転じ、同7～9月期は▲20.6と、さらに上昇する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲19.6と、前期（▲15.0）から4.6ポイント低下した。来期は▲20.6と、さらに低下する見通しとなっている。 今期の受注BSIは▲24.5と、前期（▲20.8）から3.7ポイント低下した。来期は▲29.4と、さらに低下する見通しとなっている。 今期の仕入価格BSIは35.8と、前期（47.7）から11.9ポイント低下した。今期の販売価格BSIは▲3.0と、前期（9.9）から12.9ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。 今期の資金繰りBSIは▲6.4と、前期（▲4.7）から1.7ポイント低下した。来期は▲12.3と、さらに低下する見通しとなっている。 26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は28.3%と、前年度実績（25.4%）から増加した。 経営上の問題は「人材不足」（52.5%）が最も多く、以下、「労働力不足」（36.8%）、「仕入価格の上昇」（36.3%）と続いている。
<p>運輸・通信業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 26年10～12月期の業況判断BSIは▲6.2と、前期（▲19.8）から13.6ポイント上昇したが、続く27年1～3月期は▲13.1と低下した。先行きについてみると、同4～6月期は▲10.8と上昇に転じ、同7～9月期は▲8.4と、さらに上昇する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは0.7と、前期（▲5.6）から6.3ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じた。来期は▲6.9と、7.6ポイント低下し、プラスからマイナスに転じる見通しとなっている。 今期の仕入価格BSIは7.7と、前期（36.6）から28.9ポイント低下した。今期の販売価格BSIは7.7と、前期（7.1）とほぼ同水準で推移した。 今期の資金繰りBSIは▲5.4と、前期（▲11.3）から5.9ポイント上昇した。来期は▲3.9と、さらに上昇する見通しとなっている。 26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は31.0%と、前年度実績（31.0%）と同水準であった。 経営上の問題は「人材不足」（48.5%）が最も多く、以下「労働力不足」（35.4%）、「人件費の増加」（26.9%）と続いている。

卸・小売業	<ul style="list-style-type: none"> 26年10～12月期の業況判断BSIは▲39.5と、前期（▲38.8）からほぼ同水準で推移したが、続く27年1～3月期は▲42.7と低下した。先行きについてみると、同4～6月期は▲31.3と上昇に転じ、同7～9月期は▲26.7と、さらに上昇する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲37.0と、前期（▲26.0）から11.0ポイント低下した。来期は▲24.8と、上昇に転じる見通しとなっている。 今期の仕入価格BSIは22.3と、前期（38.0）から15.7ポイント低下した。今期の販売価格BSIは▲4.5と、前期（16.9）から21.4ポイント低下し、プラスからマイナスに転じた。 今期の資金繰りBSIは▲24.9と、前期（▲7.0）から17.9ポイント低下した。来期は▲19.1と、上昇に転じる見通しとなっている。 26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は18.9%と前年度実績（15.3%）から増加した。 経営上の問題は「仕入価格の上昇」（40.8%）が最も多く、以下「生産・受注・売上げ不振」（38.9%）、「販売価格の低下」（34.4%）と続いている。
非製造業 飲食・宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> 26年10～12月期の業況判断BSIは▲44.0と、前期（▲28.6）から15.4ポイント低下したが、続く27年1～3月期は▲40.2と上昇した。先行きについてみると、同4～6月期は▲19.6とさらに上昇するが、同7～9月期は▲22.4と、低下に転じる見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲17.7と、前期（▲22.8）から5.1ポイント上昇した。来期は▲15.0と、さらに上昇する見通しとなっている。 今期の仕入価格BSIは54.2と、前期（60.0）から5.8ポイント低下した。今期の販売価格BSIは5.7と、前期（13.3）から7.6ポイント低下した。 今期の資金繰りBSIは▲29.0と、前期（▲17.2）から11.8ポイント低下した。来期は▲18.7と、上昇に転じる見通しとなっている。 26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は20.4%と、前年度実績（15.2%）から増加した。 経営上の問題は「仕入価格の上昇」（69.2%）が最も多く、以下「生産・受注・売上げ不振」（41.1%）、「人材不足」（40.2%）と続いている。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 26年10～12月期の業況判断BSIは▲25.6と、前期（▲22.4）から3.2ポイント低下し、続く27年1～3月期は▲33.5とさらに低下した。先行きについてみると、同4～6月期は▲28.1と上昇に転じ、同7～9月期は▲24.6と、さらに上昇する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲23.6と、前期（▲24.9）から1.3ポイント上昇した。来期は▲24.6と、低下に転じる見通しとなっている。 今期の仕入価格BSIは30.6と、前期（20.4）から10.2ポイント上昇した。今期の販売価格BSIは▲2.0と、前期（▲4.3）から2.3ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲15.8と、前期（▲13.7）から2.1ポイント低下した。来期は▲12.3と、上昇に転じる見通しとなっている。 26年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は、18.8%と、前年度実績（16.9%）から増加した。 経営上の問題は「人材不足」（40.9%）が最も多く、以下「競争の激化」（30.5%）、「仕入価格の上昇」（29.6%）と続いている。